

作成日 平成 17年 2月 28日
改訂日 令和 4年 5月 16日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ライトクリスタル ZX-D1
製品整理番号	BA091
供給者の会社名称	株式会社ウォーターエージェンシー
住 所	162-0813 東京都新宿区東五軒町 3 番 25 号
担当部門	ケミカルサービス事業本部
TEL	03-3267-4073
FAX	03-3267-4106
緊急連絡電話番号	同 上
推奨用途および使用上の制限	工業用消臭剤

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類（記載のない項目は分類できない又は区分に該当しない）

物理化学的危険性	酸化性液体	区分3
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分3
	急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	区分1
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
	生殖細胞変異原性	区分2
	生殖毒性	区分2+授乳影響
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(血液)、2(心血管系)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2(血液)
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分1

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

火災助長のおそれ;酸化性物質
飲み込むと有毒
吸入すると生命に危険(粉塵、ミスト)
強い眼刺激
遺伝性疾患のおそれの疑い
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
授乳中の子に害を及ぼすおそれ
臓器の障害(血液)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(血液)
水生生物に非常に強い毒性
長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

<安全対策>

- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- 衣類および可燃物から遠ざけること。
- 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- 粉じん、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- 妊娠中および授乳期中は接触を避けること。
- 取扱い後は手、顔をよく洗うこと。

- ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 - ・環境への放出を避けること。
 - ・火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。
 - ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
 - ・皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診察、手当てを受けること。
 - ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当てを受けること。
 - ・飲み込んだ場合：口をすすぐこと。直ちに医師に連絡すること。
 - ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。気分が悪い時は、医師の診察、手当てを受けること。
 - ・漏出物を回収すること。
 - ・施錠して保管すること。
 - ・換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 - ・廃棄については、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
 - ・内容物及び容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
- < 応急措置 >
- < 保管 >
- < 廃棄 >

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物	
化学名又は一般名	①窒素系酸化物	②有機静菌剤
化学物質を特定できる一般的な番号	①CAS No. 有り	②CAS No. 有り
化学式	①非開示	②非開示
成分及び濃度又は濃度範囲	①窒素系酸化物 非開示	②有機静菌剤 非開示
官報公示番号（化審法）	①化審法番号有り	②化審法番号有り
（安衛法）	①公表化学物質	②公表化学物質

4. 応急措置

吸入した場合	直ちに新鮮な空気のある場所へ移動し、鼻をかませ、うがいをする。必要に応じて医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣服・靴等を脱ぎ捨て、石鹼および多量の水で洗う。外観に変化が見られたり、痛みが続いたり、かぶれを生じた場合は、医師の診断、手当てを受ける。
眼に入った場合	清浄な水で最低 15 分間目を洗浄し、医師の手当てを受ける。 コンタクトレンズを着用している場合は直ちに外し洗浄する。 洗浄が遅れたり、不十分だと眼の障害を生ずるおそれがある。
飲み込んだ場合	直ちに口内を水でよく洗浄し水を飲ませ直ちに医師の診断を受ける。
急性症状及び遅発性症状並びに最も重要な兆候及び症状	吸入：咽頭痛、咳、めまい、頭痛、吐気、息切れ 皮膚：白斑、発赤、皮膚熱傷、痛み 眼：発赤、痛み、かすみ、刺激感
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	ゴーグル、保護衣、樹脂製手袋等の保護具を必ず着用する。
医師に対する特別な注意事項	特になし。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水、二酸化炭素、粉末消火剤。
使ってはならない消火剤	特になし。
火災時の特有の危険有害性	不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。 火災時に刺激性もしくは有毒なフェーム(またはガス)を放出する。
特有の消火方法	火災の周辺にある容器は、速やかに安全な場所へ移動させる。移動できない場合は散水冷却する。 火災によっては、窒素系酸化物系の有毒ガスが発生するおそれがある為、必ず消火作業は風上から行う。火災地域周辺に人が立ち入れないようにする。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

燃焼ガスには有害物質が含有する為、これらの吸入を防ぐために適切な呼吸保護具等を着用する。また保護衣、保護眼鏡、保護手袋等の保護具を必ず着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置
環境に対する注意事項
封じ込め及び浄化の方法
及び機材

作業時は必ず風上に立ち必ず保護具を着用すること。皮膚や眼に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。素手で取扱いをしないこと。
河川、下水等の公共用水域に流さない処置を行うこと。
少量の場合は、ウエスで拭き取るか又は、砂などの不活性媒体に吸収させるなどして拡散を防止する。

二次災害の防止策

多量の場合は、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム缶等に回収する。回収したものをスルファミン酸水溶液に攪拌しながら徐々に添加し分解させる。中和後、多量の水に希釈する。
状況に応じロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。
作業は必ず保護具を着用し、風上から実施する
防水シートなどで覆いをし、漏出拡大の防止を図る。床が濡れた状態では滑りやすいので処理をする。また付近に他の可燃物、薬剤、熱源、火気がある場合は速やかにその場から離す。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

ゴーグル、保護衣、樹脂製手袋等の保護具を必ず着用する。

局所排気・全体換気

換気が行うことができる箇所で取扱う。

安全取扱注意事項

必要に応じて全体換気、局所排気を行う。

使用場所でみだりに火気を使用しない。

可燃物や酸化されやすい物質との混触を避けること。

作業後は、手洗い・洗顔・うがいをを行う。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

環境への放出を避けること。

接触回避

『10. 安定性及び反応性』を参照。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

容器を密閉して保管すること。

使用場所の付近には、可燃物、引火物を置かない。

可燃物や、分解を促進する物質と混合貯蔵してはならない。

乾燥して白い結晶が析出した場合は発火の危険性があるので水洗い又は水拭きを行わず、結晶を取り除く。結晶に摩擦、衝撃を与えない。

保管場所には水道などを設備し、万が一の場合容易に洗い流せるようにする。

通気の良い場所に保管し、直射日光を避け冷暗所に保管することが望ましい。

安全な容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

ポリエチレン等の樹脂製容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会(2014年度版):設定されていない。

ACGIH(2013年度版):設定されていない。

設備対策

取扱い場所には安全シャワー、洗眼設備を設置し、その位置を明示する。

全体換気または局所排気装置を設置する。

保護具

呼吸用保護具:必要に応じて防毒マスクを着用する。

手の保護具:合成ゴム手袋又は、合成樹脂(ポリエチ)手袋を着用する。

眼、顔面の保護具:保護眼鏡、ゴーグル型保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具:長袖作業着、ゴム長靴、前掛けを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	淡黄色
臭い	ほぼ無臭
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	100℃
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／ 可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	約 10
動粘性率	データなし
溶解度	水(自由に混合)
n-オクタノール／水分配係数(log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	約 1.3
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	酸化剤である。
化学的安定性	通常の使用条件及び保存条件では安定である。空気中で徐々に酸化される。 乾燥すると、熱、火災、摩擦または衝撃により爆発するおそれがある。
危険有害反応可能性	酸と接触すると、非常に有毒なヒュームが発生する。酸化剤であり、還元性物質を酸化する。 本品の水分がなくなり乾固したものは、他の薬剤と接触及び反応することにより発火や爆発するおそれがある。
避けるべき条件	高温、加熱、乾燥、混触危険物質との混触
混触危険物質	酸、可燃物等
危険有害な分解生成物	窒素酸化物、硫黄酸化物

11. 有害性情報

本製品としてのデータはないので、各成分のデータを基に分類分けを行う。

急性毒性	経口:窒素酸化物:区分3 経皮:データなし(分類できない) 吸入(気体):区分に該当しない 吸入(蒸気):データなし(分類できない) 吸入(粉塵、ミスト):窒素酸化物:区分1
皮膚腐食性／刺激性	区分2:区分2の有機静菌剤を含む。
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	区分2:区分2の窒素酸化物及び有機静菌剤を含む。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性:データなし(分類できない) 皮膚感作性:データなし(分類できない)
生殖細胞変異原性	区分2:区分2の窒素酸化物を含む。
発がん性	データなし(分類できない)
生殖毒性	区分2+授乳影響:区分2の窒素酸化物を含む。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(血液)、区分2(心血管系)の窒素系酸化物を含む。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2(血液):区分2の窒素系酸化物を含む。
誤えん有害性	データなし(分類できない)

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	区分1に該当する窒素系酸化物、有機静菌剤を含む。
水生環境有害性 長期(慢性)	区分1に該当する窒素系酸化物、有機静菌剤を含む。
残留性・分解性	データなし。

生体蓄積性
 土壌中の移動性
 オゾン層への有害性

データなし。
 データなし。
 含有物質がモンリオール議定書の附属書に列記されていないため、分類できない。

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、当該化学品が附着している汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

化学品の廃棄は、焼却する場合、関連法規・法令を遵守する。また、廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関連法規・法令遵守し、適正に処理する。

空の汚染容器及び包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者に廃棄物処理法(廃棄物及び清掃に関する法律)、及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

14. 輸送上の注意

国連番号

3219

品名

無機亜硝酸塩類(水溶液)

国連分類

5.1

容器等級

III

陸上規制情報

労働安全衛生法等の規定に従う。

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報

航空法の規定に従う。

輸送又は輸送手段に関する

直射日光、水漏れ、湿気、火気、熱源を避け、容器の破損、漏れのない様に積み込む。

特別の安全対策

粗暴に取り扱わない。

荷崩れ、落下などに注意する。

容器が破損しないように注意する。

容器を投げない、落さないこと。容器の上に乗らないこと。

輸送作業は取扱い及び保管上の注意事項に留意して行う。

緊急時応急措置指針番号

140

15. 適用法令

労働安全衛生法

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

消防法

非該当

船舶安全法

酸化性物質(危規則第2、3条危険物告示別表1)

海洋汚染防止法

有害液体物質(Y類)

航空法

酸化性物質(施行規則第194条危険物告示別表1)

水質汚濁防止法

有害物質(施行令第2条)亜硝酸化合物

16. その他の情報

・参考文献

独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)

原料メーカーSDS

・記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査した訳ではないため、情報洩れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じることがあります。

重要な決定等にご利用される場合は、試験によって確かめられる事をお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、推奨用途上の通常的な取扱いを対象としたものなので、推奨用途から外れる特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

・問合せ先

担当部門 ケミカルサービス事業本部

電話番号 03-3267-4073 FAX 番号 03-3267-4106